

## アルファガル症候群

### アルファガルとは

アルファガル alpha-gal（ガラクトース-アルファ-1,3-ガラクトース galactose-alpha-1,3-galactose）は、大部分の哺乳類に存在し、ヒトを含む霊長類、鳥、魚、爬虫類には存在しない糖分子です。アルファガルは牛肉、豚肉、羊肉、牛乳、乳製品、ゼラチンなどに含まれています。



タカサゴキララマダニ雌成虫写真  
国立感染症研究所提供

### アルファガル症候群とは

アルファガル症候群 alpha-gal syndrome は、10年程前から知られるようになったマダニの咬傷後に生じる食物アレルギーです。アルファガル症候群は感染症ではありません。哺乳動物を吸血したマダニから咬まれるとアルファガルがヒトの体のなかに入り抗体産生が起こります。この状態でアルファガルの含まれるものを食べると症状が出現します。米国では、疾病対策センター（CDC）の研究結果から2010年以降、アルファガル症候群の疑いのある患者が最大45万人に上ることが明らかにされています。日本でも症例報告が蓄積されてきています。

### アルファガル症候群の症状

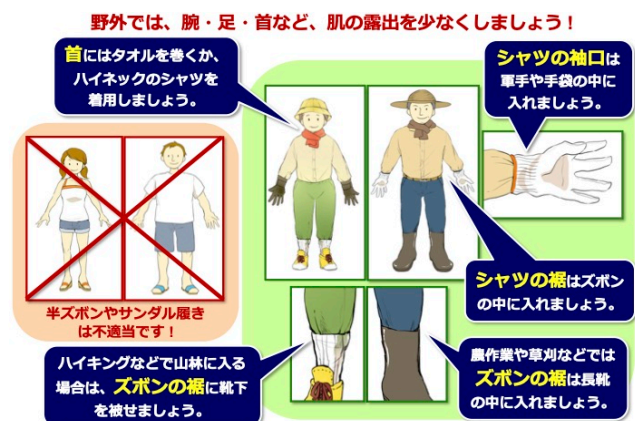
症状は、じんま疹、かゆみのある発疹、吐き気、嘔吐、胸やけ、消化不良、下痢、咳、息切れ、呼吸困難、血圧低下、唇・喉・舌・まぶたの腫れ、めまい、失神、激しい腹痛、アナフィラキシーなどです。肉や乳製品を食べてから症状出現までに約2～6時間後を要します。このようなアレルギー反応は、遅延型アレルギー（3型アレルギー）と言われます。卵、大豆、牛乳、そば、えび・かになどすぐに症状の出る即時型アレルギー（1型アレルギー）に対して、遅延型アレルギーは症状出現までの時間が長く、数時間から数週間経ってから症状が現れ、その症状も上記に加えて、頭痛、肩こり、疲労、精神神経症状など多彩であることから、なんとなく毎日調子が悪いにもかかわらず、食物アレルギーであることに気づかず、アレルギー反応が出る食品を食べ続けていることもあると考えられています。

### アルファガル症候群の診断と治療

診断は、肉や乳製品に対する遅延型アレルギー反応、血液検査のアルファガル抗体陽性を確認してなされます。治療は、軽度であれば抗ヒスタミン薬を用い、より重度の症状にはエピネフリンの筋肉内注射が必要です。アルファガル症候群の人は、哺乳類の肉を食べるのを完全にやめ、ダニ刺されを防ぎます。新たにダニに刺されると、アルファガルに対するアレルギー反応が再活性化する可能性があります。抗凝固薬（ヘパリン）、ヘビ抗毒素、特定の抗がん剤（セツキシマブ）などの使用、哺乳動物からの臓器移植（心臓弁など）は避けなければなりません。

### アルファガル症候群の予防

アルファガル症候群は、屋外に出かける前に虫よけスプレー（ディート、イカリジン）を使ったり、防虫素材でできた服を着たり、背の高い草や低木が生い茂る場所を避けたりすることで予防できます。飼い犬からのマダニに咬まれることに要注意です。屋内に入ったら、皮膚や衣服にマダニがないかチェックします。体にマダニが見つかったら、先端の細いピンセットを使用して皮膚の近くにあるマダニをつかみ、一定の均等な圧力で上に引き上げて取り除きます。最近、血液型抗原としてガラクトースを持つB型とAB型の人には、アルファガルアレルギー反応が起こりにくいことを示唆する報告があります。



(2024/1/8)

マダニから身を守る服装  
国立感染症研究所提供